令和元年度　千鷲会定期総会・懇親会開催

千鷲会だより

新緑が萌え、初夏を迎えようとする5月25日（土）令和元年度千鷲会定期総会・懇親会をホテルグランテラス千歳で行った。

定期総会は議長に村田由友会員を選出。

37名が出席して平成30年度の収支決算報告及び、本年度の事業計画・収支予算についての審議、活発な質疑応答を行い承認を得て無事終了した。

続く懇親会は、会員54名、賛助会員17名（個人・団体）、寺崎基地司令はじめ千歳基地から35名、総勢106名が出席した。

森田千鷲会副会長、寺崎千歳基地司令の挨拶に続き、市村一郎ホテルグランテラス千歳副支配人名代の乾杯で始まった。

乾杯と同時に静粛していた会場は一転、一斉に噴き出す会話と笑顔満開での会食を楽しんでいた。

もちろん話題は現役時代や軍事関係の話。初対面の方も会話が弾み、新旧政府専用機、F35戦闘機、海自護衛艦「いずも」、北朝鮮ミサイル問題等、どのテーブルでの人も笑顔溢れ会場は大きな笑い声に包まれていた。

懇親会最後は、田中副会長の中締めの挨拶でお開き。

意気投合した者同士まだまだ話足りない話題は2次会へ続いていた・・・

千　鷲　会
広報部作成

新時代「令和」の幕開け　新旧交代　政府専用機　B747からB777

新政府専用機　B777-300ER型機

昭和から平成へと激動の時代を活躍した政府専用機の新旧交代の式典が3月24日千歳基地で行われ、政専機を象徴する機体ドア内側に取り付けられていた丸型のエンブレム-300ER型機で白い機体の赤いラインは曲線と様変わり航続距離も1400キロに延びた。座席ごとに小型モニターを装着Wi-Fi利用可能となり利便性も向上した。主に皇室や政府の要人の輸送、有事における邦人輸送等の任務に就く。

B747は日本から無給油で欧州や北米の主要都市に行ける唯一の機材であることから導入され、任務は34年、訪問国は100カ国、269の寄港地、総飛行距離は地球36周分、約1460万キロとなった。機体は任務を終え売却されるが、貴賓室は取り外し浜松広報館「エアーパーク」に展示される。もう一機分は無償で貸出される。

航空祭の目玉　B747ジャンボ機

手渡しされるシンボル

新政専機の機長に手渡された。

新政専機の機体は米ボーイング社B777が新型機の型機も皆さんに愛され、受け継がれた重責を抱え政府専用機のさらなる活躍に期待したい。

航空祭では常に目玉であったジャンボ機、新

新・旧　政府専用機の比較

導　入	2019　年	1991　年
モデル	B777－300ER	B747－400
全　長	約　73.9　メートル	約　70.7　メートル
エンジン数	2　基	4　基
巡航速度	約　900　キロ	約　900　キロ
航続距離	約　1万4000　キロ	約　1万2600　キロ
随行員座席	106　席	122　席
整備企業	全日空	日本航空

千歳市奨学基金に寄付

千鷲会は、3月19日ボランティア活動として、佐藤千鷲会会長、渥美広報部長が市役所を訪問し、山口幸太郎千歳市長に千歳市奨学基金として5万円を手渡した。

千歳市奨学基金は経済的な理由により修学が困難な学生、生徒を対象とした奨学金制度である。

千鷲会は平成21年度から寄付を始め今回で10回目となった。

今後も地域貢献のため、継続して実施していきたい。